

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ） の防除対策について



ジャンボタニシを
やっつける!!

全国的にスクミリンゴガイによるイネの食害被害は増えてきており、町内においても被害が続いています。暖冬などの気候変動や水稲作付期間の拡大により今後の被害拡大が予想されるため、徹底した被害防止に挑みましょう！

【作型別 スクミリンゴガイの基本防除体系（三重県推奨）】

作型	冬期	移植時期 (薬剤散布による防除)	移植後 (浅水管理による防除)
4月移植	厳寒期前の 低速浅耕 + 厳寒期の 通常耕うん (2回耕うん)	水温に応じて 薬剤を適期散布	薬剤散布7日後～ 移植3週目に浅水管理
5月前半移植		移植直後の薬剤散布	移植7日後～ 移植2週目に浅水管理
5月後半移植		移植直後の薬剤散布 又は 植え代前の石灰窒素散布	

○冬期耕うん ⇒ 薬剤散布 ⇒ 浅水管理 が基本の防除体系です。

自身の作型に適した防除体系を選んで実施しましょう。



①冬期の耕うん

- ・耕うん1回目（作付終了後～年内）

主に大型の貝の粉碎が目的です。田面が硬い時に、トラクターの走行速度を遅く PTO 回転を速くして、厳寒期に実施しましょう。深さ 6 cm 程度の浅耕で効果が高まります。

- ・耕うん2回目（1月～2月）

厳寒期に慣行のトラクターの設定で走行して作土層の確保に努めます。レーザーレベラーなどを用いて田面を均平にすると、移植後の浅水管理の効果が高まります。

②薬剤散布

前年に被害が発生したほ場では全面に散布します。

4月移植水稲では、移植時期の気温が平年より高い年に被害が発生しやすいため、移植後3週間までの期間に貝の活動を確認してから散布しましょう。

5月以降に移植する水稲では、高水温で移植直後から被害が発生するため、直後の薬剤散布が効果的です。

5月後半以降に移植する水稲では、水温が 20℃ 以上となり、湛水すると貝が水中に現れるため、植え代前の石灰窒素散布が効果的です。

（裏面へ続きます）

③浅水管理

薬剤散布後 7 日間の止水期間の後から開始します。

ジャンボタニシは水が深い場所で活発になるため、被害を受けにくいよう 5~6 葉期になるまで、水深 4 cm 以下を維持します。田面が露出すると、雑草の繁茂や活着不良となるため、適切な水位を維持して、初期生育の確保に努めましょう。

④その他

- 冬期の水路の泥上げにより、越冬貝を低減させる。
- 水稻作付時に、取水口へのネット設置による貝の侵入防止。
- ペットボトルや育苗箱を活用したジャンボタニシ捕獲機の設置。
- 被害を拡大させないように、使用した農機をしっかりと洗浄したり、被害発生したほ場は後回しにする等の対策をしましょう。



(参考：「三重県版 スクミリンゴガイ防除対策マニュアル」)

ジャンボタニシ Q&A

Q. ジャンボタニシってどんな被害があるの？

A. ジャンボタニシは、田植え直後の柔らかい苗を食べます（食害）。食害に合わないように、これまでに紹介した対策を実施しましょう。

Q. イネや水路にピンク色の塊が付いているのは何でしょうか？

A. ジャンボタニシの卵塊です。卵塊の色が鮮やかな赤色の場合は水に落としてふ化できないようにしましょう。ピンク色や灰色の場合は、水に落としてもふ化する可能性があるため、潰して対処しましょう。

また、ジャンボタニシや卵には寄生虫がいたり神経毒が含まれている可能性があります。絶対に素手で触らないようにしましょう。

Q. ジャンボタニシの対策に何か助成はありませんか？

A. 明和町では、ジャンボタニシの被害軽減として、薬剤散布による防除をしていただいた農業者の皆さんに、購入した薬剤費用の一部を町が助成する制度を設けています。詳しくは、役場産業振興課へお問い合わせください。